



shaping your dreams

2026年11月期 第2四半期 決算説明資料

オーエスジー株式会社
2026年7月



目次

◆ P2-3	<u>決算ハイライト</u>	◆ P17	<u>BS主要指標とBS概要</u>
◆ P4-5	<u>会社概要</u>	◆ P18	<u>設備投資・減価償却費</u>
◆ P6-7	<u>決算概要</u>	◆ P19	<u>2026年11月期 業績予想</u>
◆ P8-9	<u>外部顧客への売上高（セグメント別）</u>	◆ P20	<u>株主還元方針</u>
◆ P10-11	<u>セグメント利益</u>	◆ P21	<u>為替レート</u>
◆ P12-13	<u>製品別売上高</u>	◆ P22	<u>業績・経営指標</u>
◆ P14	<u>海外売上高</u>	◆ P23	<u>OSGグループネットワーク</u>
◆ P15	<u>営業利益の増減分析</u>	◆ P24-	<u>中期経営計画</u>
◆ P16	<u>キャッシュフロー概要</u>		

決算ハイライト（1/2）

KEYとなる指標

P/L

売上高、営業利益、経常利益、純利益ともに
上半期として過去最高額を更新
多くの地域・国で需要環境は堅調

BS

棚卸資産は前期末比5,498百万円増加
増加要因
為替 +10億円
超硬材料の価格高騰に伴う原材料、仕掛品の増加が主要因

タン
グス
テン
関連

調達面

超硬製品の原材料であるタングステンは、粉末形状は中国の輸出規制対象も、焼結済みの丸棒形状は継続して調達可能

価格面（業績への影響）

調達、販売価格はAPT価格に連動

- ・上半期は価格改定と材料価格上昇の反映時期のずれが収益性に寄与
- ・今後は材料コスト上昇の影響を見込むが、価格改定に加え、生産性向上や高付加価値製品の拡販により吸収を図る

売上高

920億円

前年同期比：+19.0%

営業利益

156億円

前年同期比：+65.1%

営業利益率

17.0%

前年同期比：+4.7pt

EPS

152.16円

前年同期比：+97.8%

EBITDA

225億円

前年同期比：+40.0%

EBITDAマージン

24.5%

前年同期比：+3.7pt

自己資本比率

68.5%

前期末比：+1.0pt

ROE

13.4%

前年同期比：+5.6pt

決算ハイライト (2/2)

米州

米国の製造業は全般的に堅調。
過去に調達した低コストの在庫の
販売で利益率が改善。
メキシコ・ブラジルも業績復調。

アジア

中国の製造業は堅調で受注環境は良
好。中国・台湾の製造部門は引き続
き高い稼働率を維持し、更に利益率
が改善。インド、タイも好調継続。

欧州・アフリカ

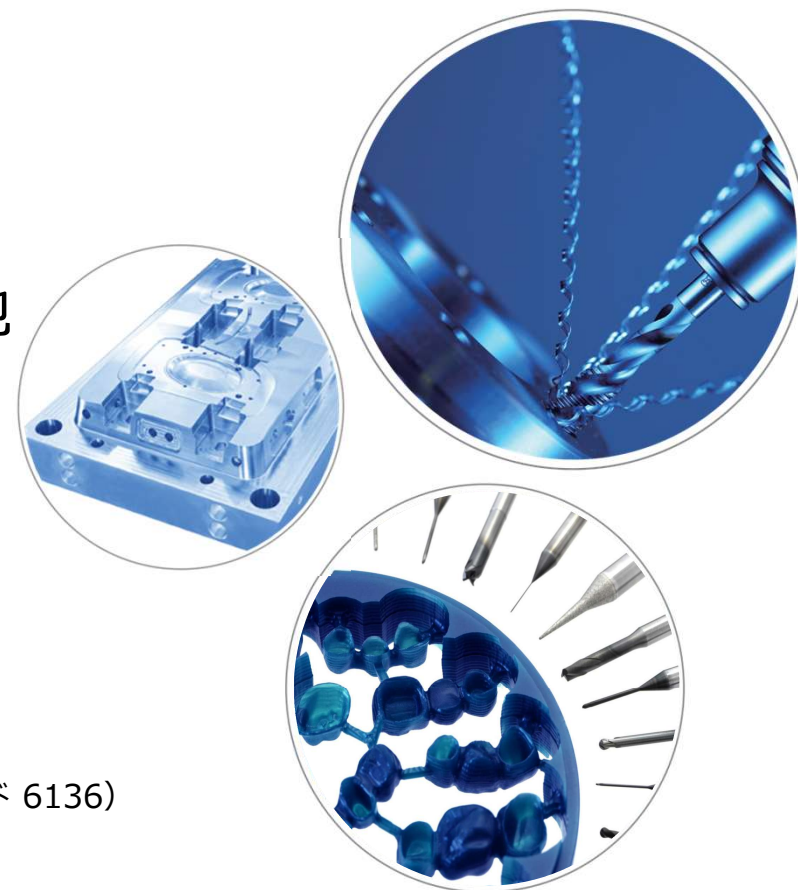
欧州経済は比較的堅調。
航空機、医療、エネルギー関連が
引き続き良好。
当社のドイツ拠点も着実に回復。

日本

景況感に変化はないものの、
航空・防衛からの受注は増加傾向。
海外グループ会社向けの輸出増加で
利益が改善。

会社概要

商 号 オーエスジー株式会社
本 社 愛知県豊川市本野ヶ原三丁目22番地
設 立 1938年3月26日
資 本 金 130億44百万円
従業員数 連結7,573名、単体1,866名
事業内容 切削工具、転造工具の製造販売
上場市場 東証プライム・名証プレミア (証券コード 6136)



注意事項

- この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。
- これらの記述は、当社が現時点で把握可能な情報からの判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確定な要素を含んでいます。そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

会社概要

製品

- ・ 主に工作機械で使われる消耗工具
- ・ 創業製品である**タップ**は
世界トップシェア（約30%超）

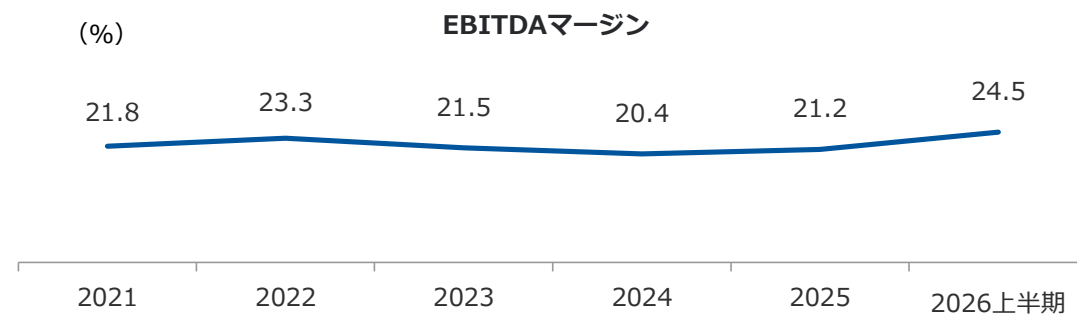
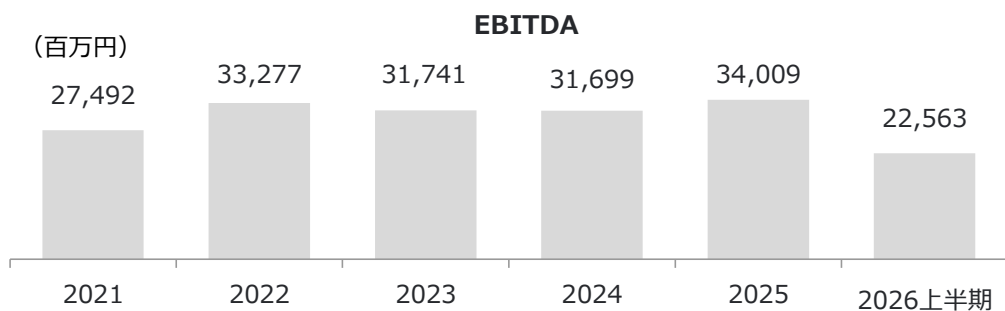
OSGの強み

- ・ 高付加価値製品を生み出す高い技術力
- ・ 堅固なお客様サポート体制
- ・ 世界35カ国に渡る
グローバルネットワーク



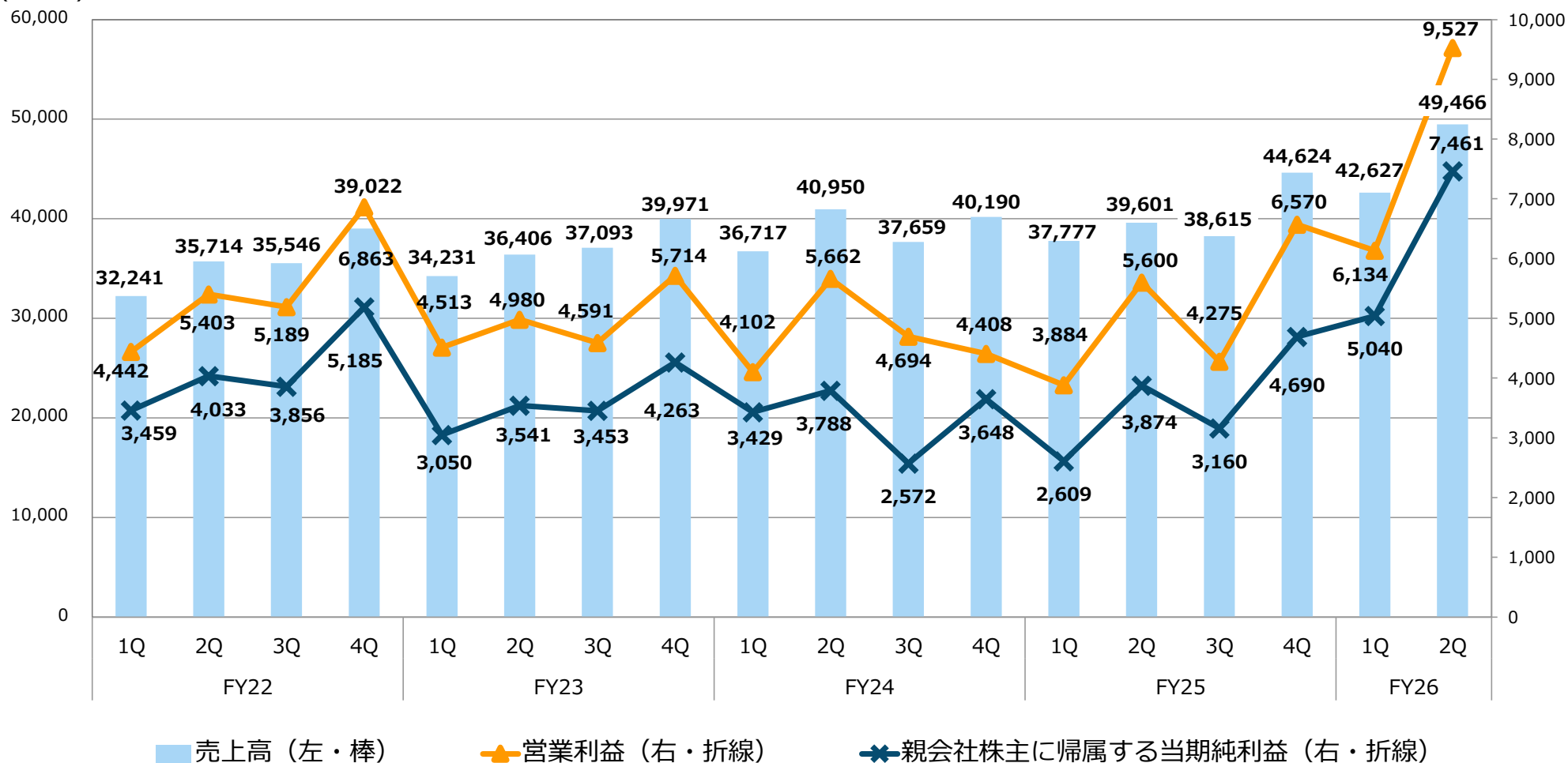
決算概要

	FY25			FY26			前年同期比		FY26上半期 期初予想	(百万円) 進捗率
	1Q	2Q	上半期	1Q	2Q	上半期				
売上高	37,777	39,601	77,379	42,627	49,466	92,093	14,714 +19.0%		81,300	113.3%
営業利益	3,884	5,600	9,484	6,134	9,527	15,661	6,176 +65.1%		10,350	151.3%
営業利益率	10.3%	14.1%	12.3%	14.4%	19.3%	17.0%	4.7pt -		12.7%	-
経常利益	4,155	5,760	9,915	6,694	10,445	17,140	7,224 +72.9%		10,850	158.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	2,609	3,874	6,483	5,040	7,461	12,501	6,018 +92.8%		7,200	173.6%
EPS (円)	30.73	46.21	76.94	61.35	90.81	152.16	75.22 +97.8%		87.64	-
EBITDA	7,200	8,920	16,121	9,624	12,938	22,563	6,441 +40.0%		-	-
EBITDAマージン	19.1%	22.5%	20.8%	22.6%	26.2%	24.5%	3.7pt -		-	-



決算概要

(百万円)



外部顧客への売上高（セグメント別）

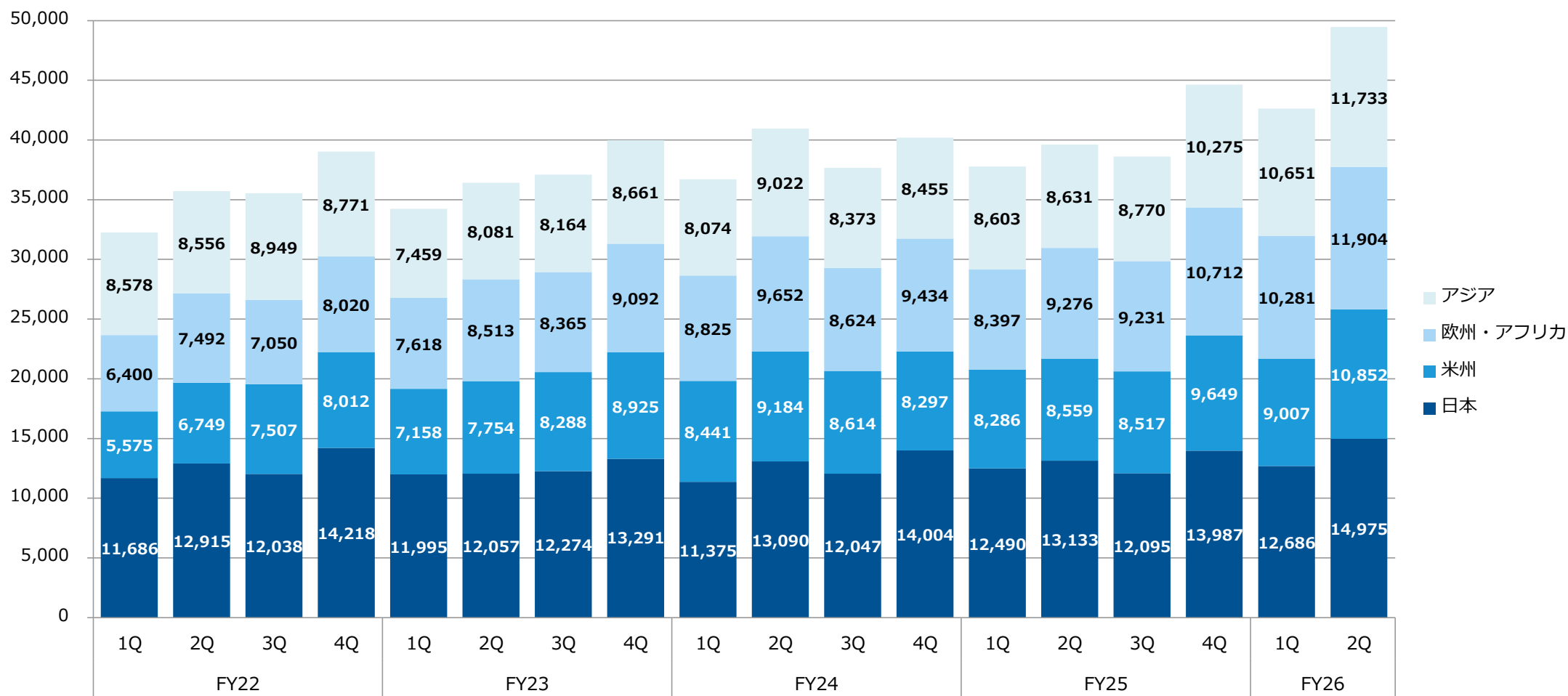
（百万円）

現地通貨ベース
前年同期比

	1Q	FY25 2Q	上半期	1Q	FY26 2Q	上半期	増減額	前年同期比	
日本	12,490	13,133	25,623	12,686	14,975	27,662	2,038	+8.0%	-
米州	8,286	8,559	16,846	9,007	10,852	19,860	3,013	+17.9%	+10.7%
欧州・アフリカ	8,397	9,276	17,673	10,281	11,904	22,185	4,512	+25.5%	+10.6%
アジア	8,603	8,631	17,235	10,651	11,733	22,385	5,150	+29.9%	+21.1%
連結	37,777	39,601	77,379	42,627	49,466	92,093	14,714	+19.0%	-

外部顧客への売上高推移（セグメント別）

(百万円)



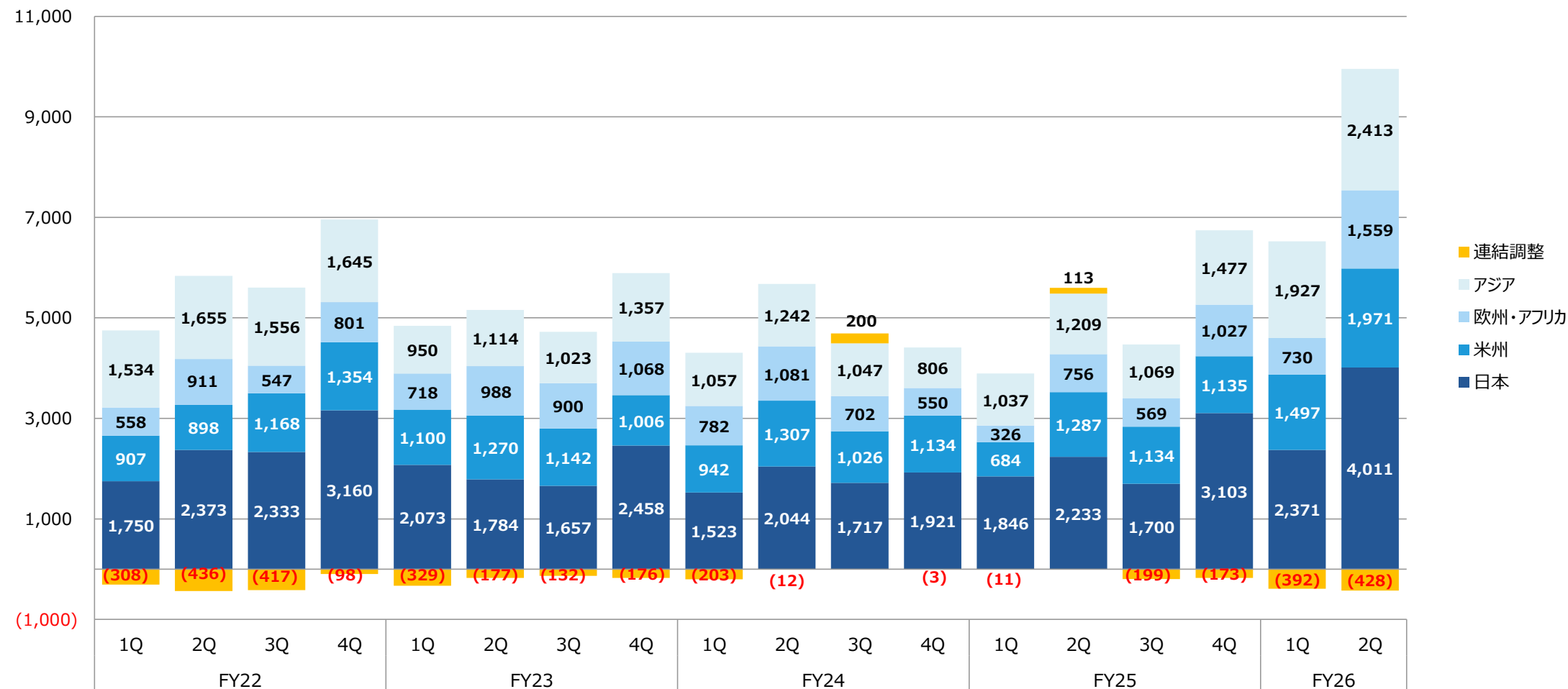
セグメント利益

							(百万円)	
	1Q	FY25 2Q	上半期	1Q	FY26 2Q	上半期	増減額	前年同期比
日本	1,846	2,233	4,079	2,371	4,011	6,382	2,302	+56.4%
利益率	10.2%	11.7%	11.0%	12.3%	18.0%	15.3%	4.4pt	
米州	684	1,287	1,972	1,497	1,971	3,469	1,497	+75.9%
利益率	8.1%	14.8%	11.5%	16.3%	17.0%	16.7%	5.2pt	
欧州・アフリカ	326	756	1,083	730	1,559	2,289	1,205	+111.2%
利益率	3.8%	8.0%	6.0%	7.0%	13.0%	10.2%	4.1pt	
アジア	1,037	1,209	2,246	1,927	2,413	4,341	2,094	+93.2%
利益率	10.9%	12.5%	11.7%	16.2%	18.2%	17.3%	5.6pt	
計	3,895	5,486	9,382	6,526	9,956	16,483	7,100	+75.7%
調整	-11	113	102	-392	-428	-821	-923	-
連結	3,884	5,600	9,484	6,134	9,527	15,661	6,176	+65.1%

※利益率は「外部顧客への売上高」と「セグメント間の内部売上高又は振替高」の合計に対する営業利益率

セグメント利益推移

(百万円)



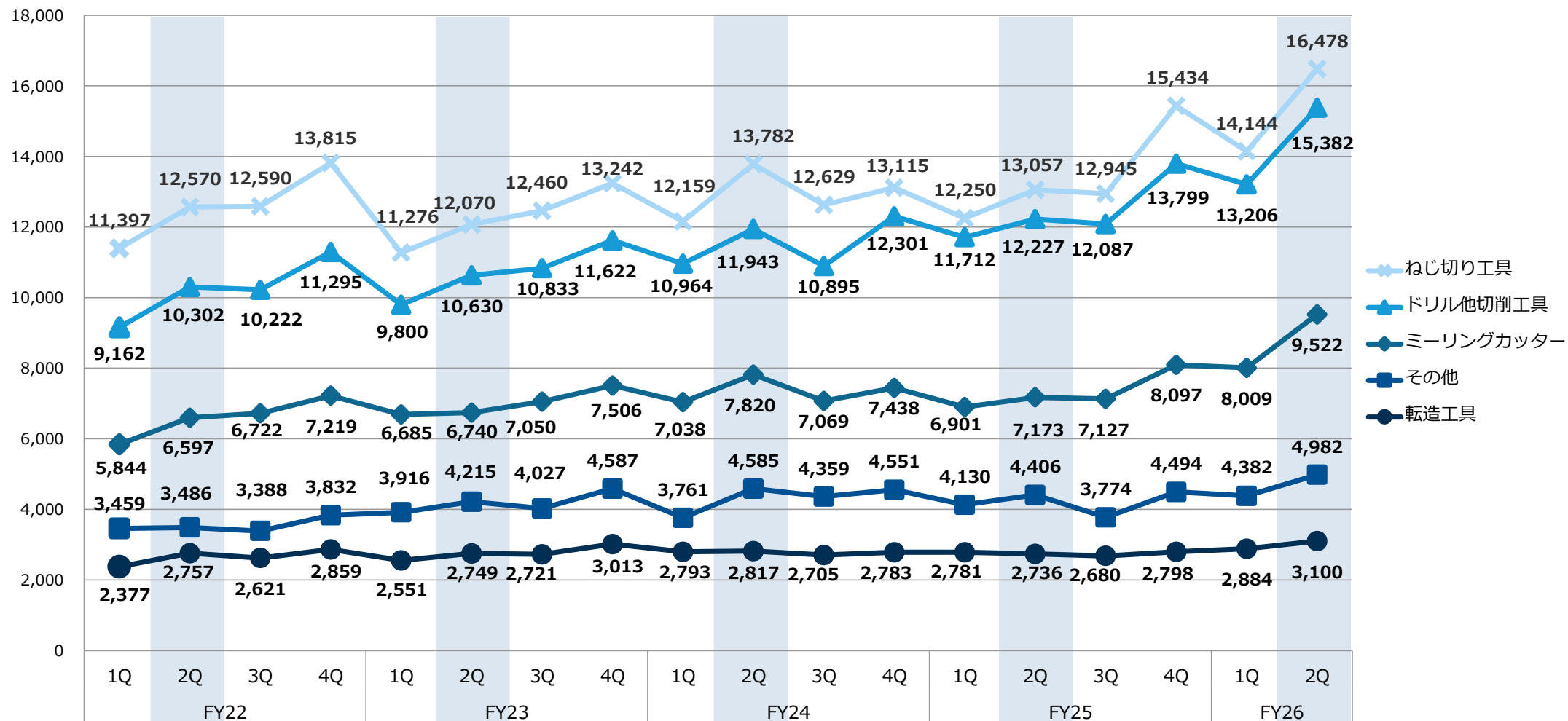
製品別売上高

(百万円)

		FY25						FY26				前年同期比	
		1Q	2Q	3Q	4Q	上半期		1Q	2Q	上半期		増減	
精密工具	ねじ切り工具	12,250	13,057	12,945	15,434	25,308	32.7%	14,144	16,478	30,622	33.3%	5,314	+21.0%
	ミーリングカッター	6,901	7,173	7,127	8,097	14,075	18.2%	8,009	9,522	17,532	19.0%	3,456	+24.6%
	ドリル他切削工具	11,712	12,227	12,087	13,799	23,939	30.9%	13,206	15,382	28,589	31.0%	4,649	+19.4%
	転造工具	2,781	2,736	2,680	2,798	5,518	7.1%	2,884	3,100	5,984	6.5%	466	+8.5%
	測定工具	517	538	549	538	1,055	1.4%	495	606	1,101	1.2%	46	+4.4%
	計	34,164	35,733	35,390	40,668	69,897	90.3%	38,739	45,090	83,830	91.0%	13,933	+19.9%
その他	機械	1,344	1,600	822	1,516	2,944	3.8%	1,008	1,271	2,280	2.5%	-664	-22.6%
	その他	2,269	2,267	2,401	2,439	4,536	5.9%	2,878	3,104	5,982	6.5%	1,445	+31.9%
	計	3,613	3,868	3,224	3,955	7,481	9.7%	3,887	4,375	8,262	9.0%	781	+10.4%
合計		37,777	39,601	38,615	44,624	77,379	100%	42,627	49,466	92,093	100%	14,714	+19.0%

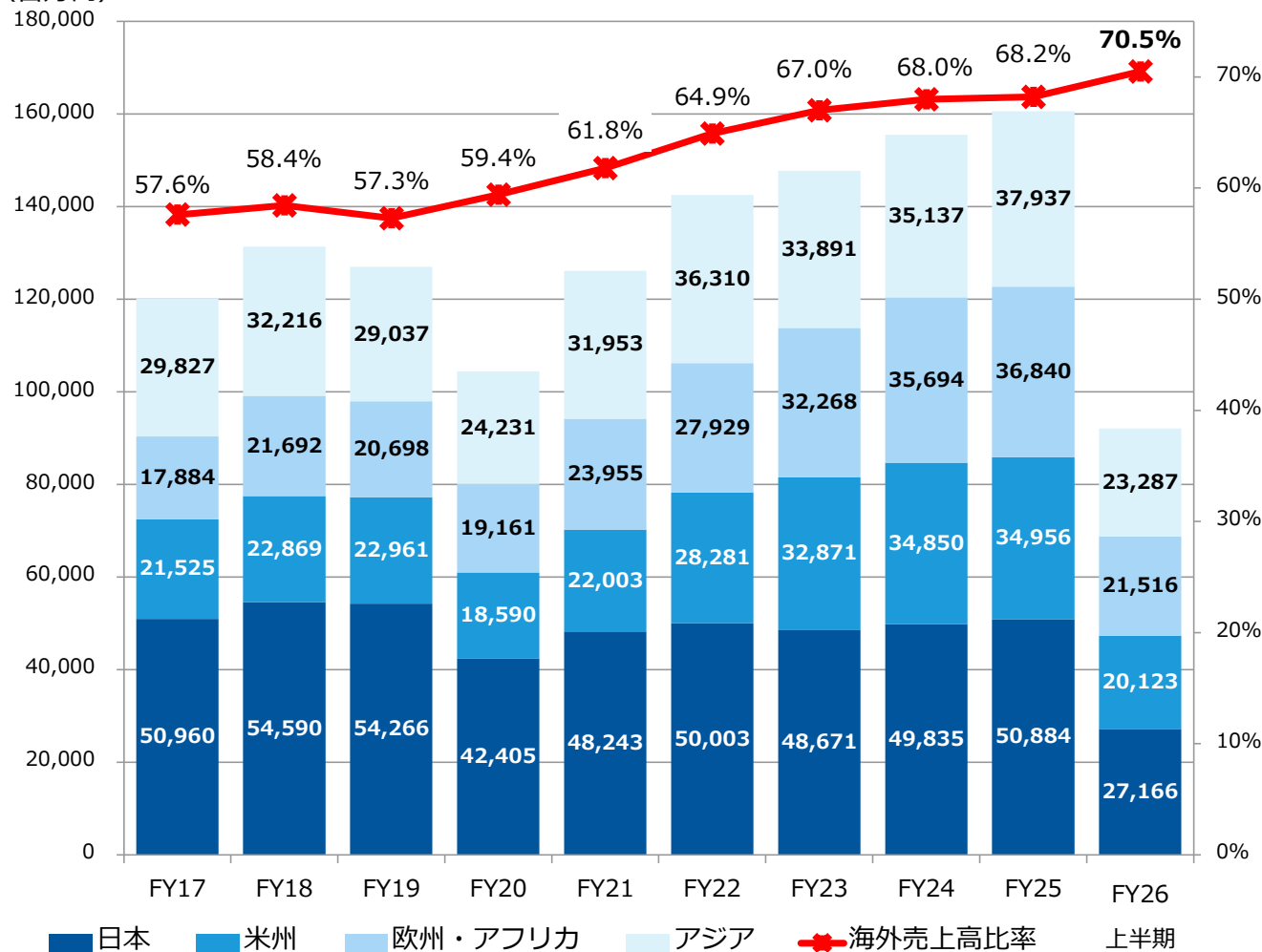
製品別売上高推移

(百万円)

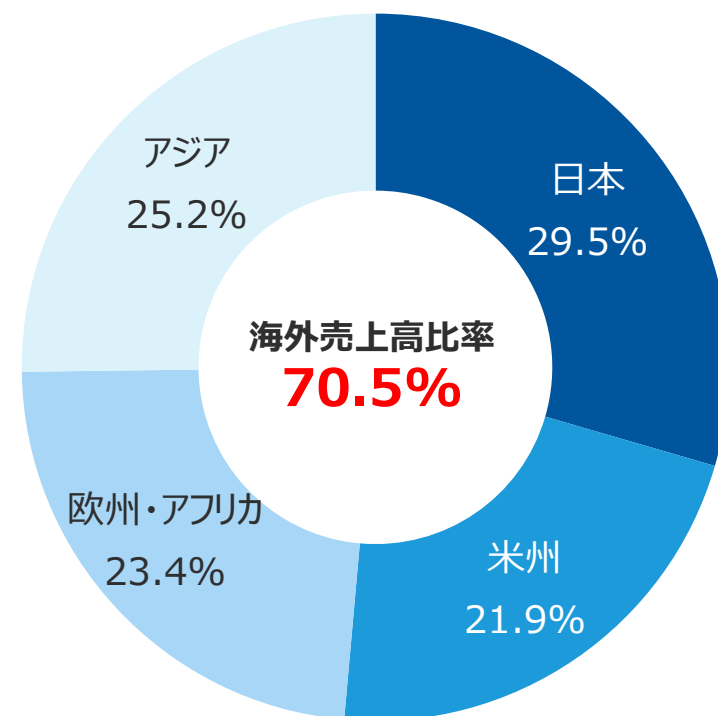


海外売上高の推移

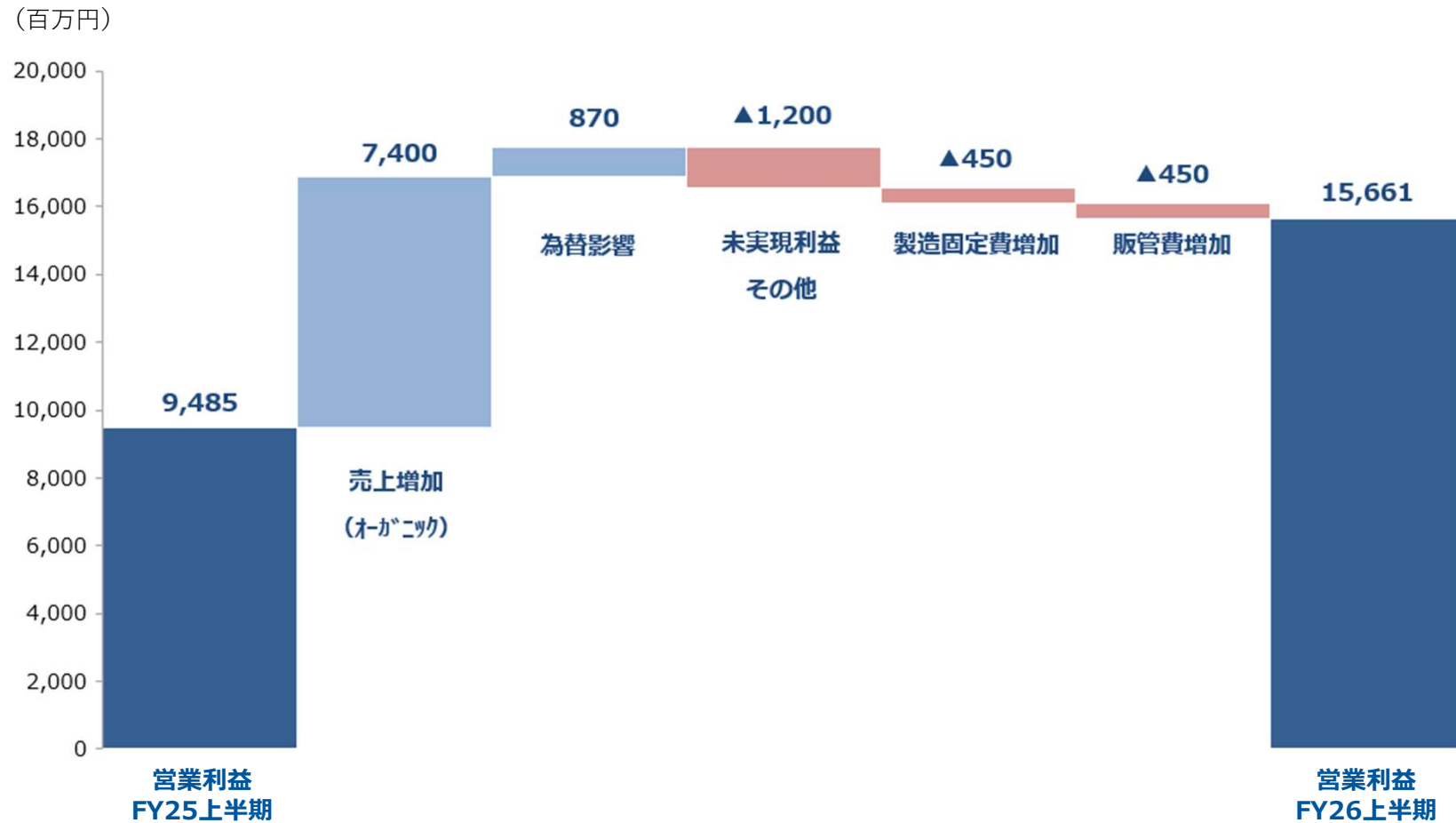
(百万円)



FY26上半期



営業利益の増減分析



キャッシュフロー概要

(百万円)

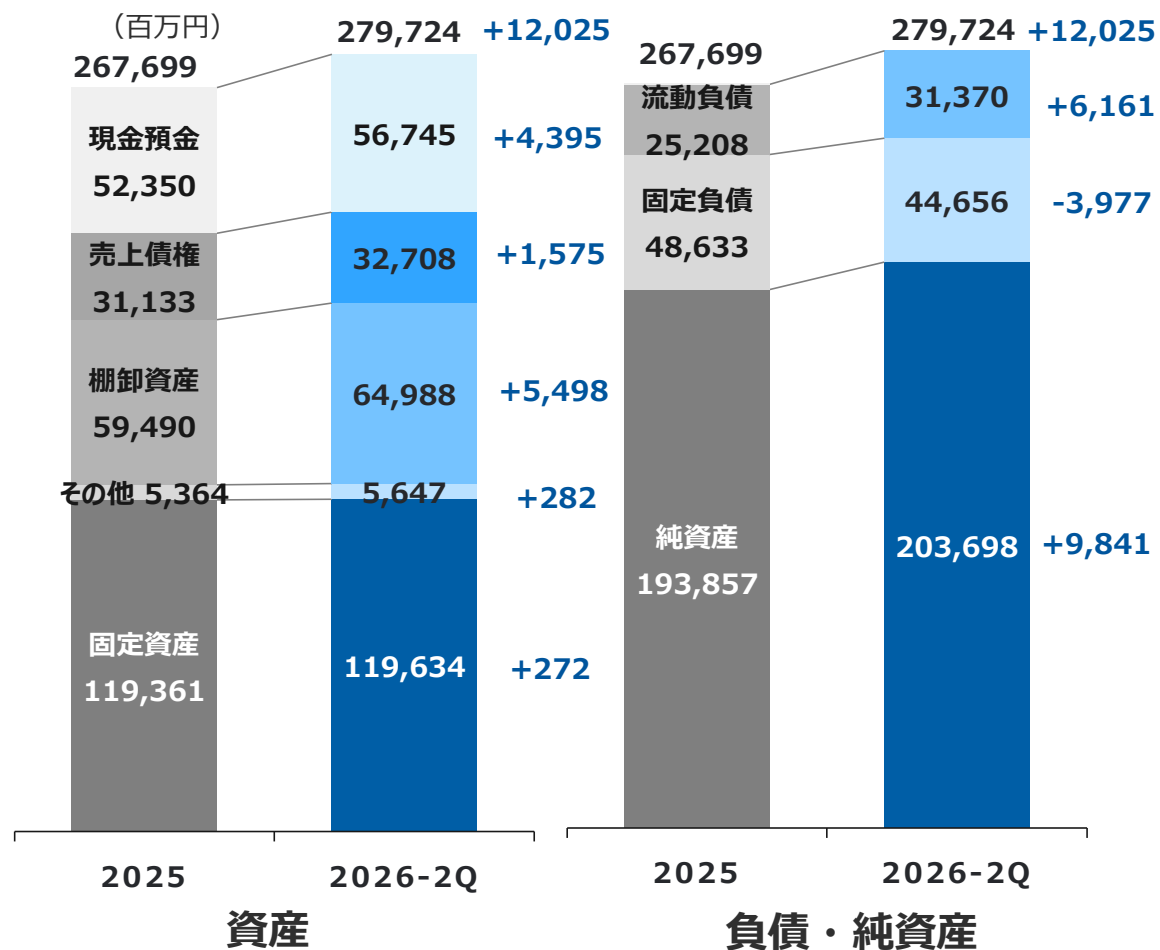
	FY23	FY24	FY25	FY25 上半期	FY26 上半期	前年同期比 増減
税金等調整前当期利益	20,747	19,803	21,334	9,977	17,296	7,318
減価償却費	11,037	11,824	12,598	6,111	6,485	374
売上債権増減	-480	450	-1,392	315	-480	-796
棚卸資産増減	-2,076	519	-1,032	-192	-4,267	-4,074
仕入債務の増減	-56	-453	124	-344	1,679	2,024
未払費用の増減	77	-167	-190	-51	607	659
法人税の支払額	-7,909	-5,521	-6,370	-3,065	-4,206	-1,140
その他	1,990	2,101	1,318	287	-572	-860
営業キャッシュ・フロー	23,331	28,557	26,389	13,036	16,541	3,504
有形固定資産の取得	-10,580	-15,509	-14,324	-8,087	-5,727	2,360
子会社株式の取得	-1,037	-694	-1,323	-1,308	-	1,308
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得	-	-5,418	-	-	-	-
連結範囲の変更を伴う子会社出資金の売却	552	-	-	-	-	-
定期預金の支出入	2,511	643	3,027	1,194	-342	-1,537
その他	10	-761	-1,355	-102	231	334
投資キャッシュ・フロー	-8,543	-21,741	-13,976	-8,304	-5,838	2,466
フリー・キャッシュ・フロー	14,787	6,816	12,413	4,731	10,703	5,971
有利子負債の増減額	3,044	20,363	-4,337	-4,165	-939	3,225
配当の支払	-6,220	-5,612	-5,011	-2,716	-4,927	-2,211
非支配株主への配当金の支払額	-305	-295	-234	-174	-882	-708
連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得	-381	-23	-	-	-1,155	-1,155
自己株式の取得による支出	-3	-22,001	-5,001	-5,000	-2	4,998
その他	35	-416	-450	-225	-252	-26
財務キャッシュ・フロー	-3,831	-7,985	-15,035	-12,281	-8,159	4,122
換算差額	1,975	-412	2,403	-736	891	1,628
キャッシュの増減	12,931	-1,581	-218	-8,286	3,435	11,721
新規連結に伴うキャッシュ増加	73	42	-	-	676	676
非連結子会社との合併に伴うキャッシュ増加	-	21	-	-	12	12
連結子会社の決算期変更に伴うキャッシュ増加	-	-	17	17	-	-17
キャッシュ期末残高	49,722	48,206	48,005	39,937	52,129	12,191

BS主要指標とBS概要

BS主要指標

Net Cash 12,656 百万円 (FY25末 7,392百万円)	売上債権回転期間 2.2 ヶ月 (FY25末 2.4ヶ月)
現金預金 56,745 百万円 (FY25末 52,350百万円)	棚卸資産回転期間 4.3 ヶ月 (FY25末 4.5ヶ月)
有利子負債 44,089 百万円 (FY25末 44,957百万円)	自己資本比率 68.5% (FY25末 67.5%)

連結貸借対照表の概要



設備投資・減価償却費

2026年度 設備投資予想

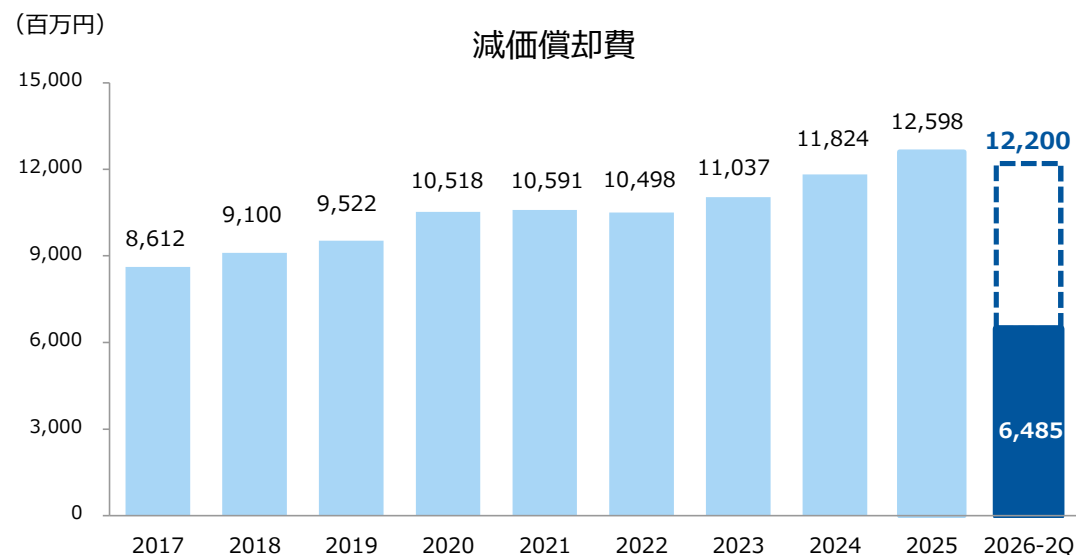
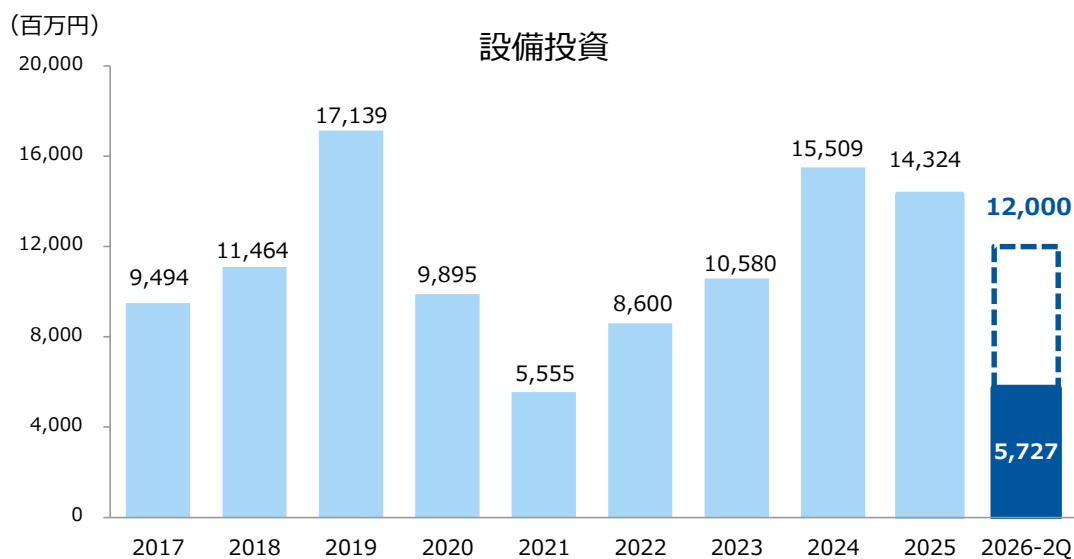
約120億円

設備投資実績
5,727百万円

Breakdown

前期末検収の約7億円を含む
超硬エンドミルの新大池工場Ⅱ期工事、機械設備等

減価償却費実績
6,485百万円



2026年11月期 連結業績予想の修正

(百万円)

連結	FY26 修正前予想	FY26 修正後予想	増加額	増加率	単体	FY26 通期予想
売上高	165,000	185,000	-	-	売上高	60,000
営業利益	22,000	30,000	8,000	+36.4%	営業利益	6,500
営業利益率	13.3%	16.2%	+2.9%	-	営業利益率	10.8%
経常利益	23,000	32,000	9,000	+39.1%	経常利益	15,000
親会社株主に帰属 する当期純利益	15,400	21,000	5,600	+36.4%	当期純利益	12,900
EPS (円)	187.46	255.60	68.14	+36.3%	EPS (円)	156.95

予想前提レート(修正前) : 1US\$=150円 1Euro=170円

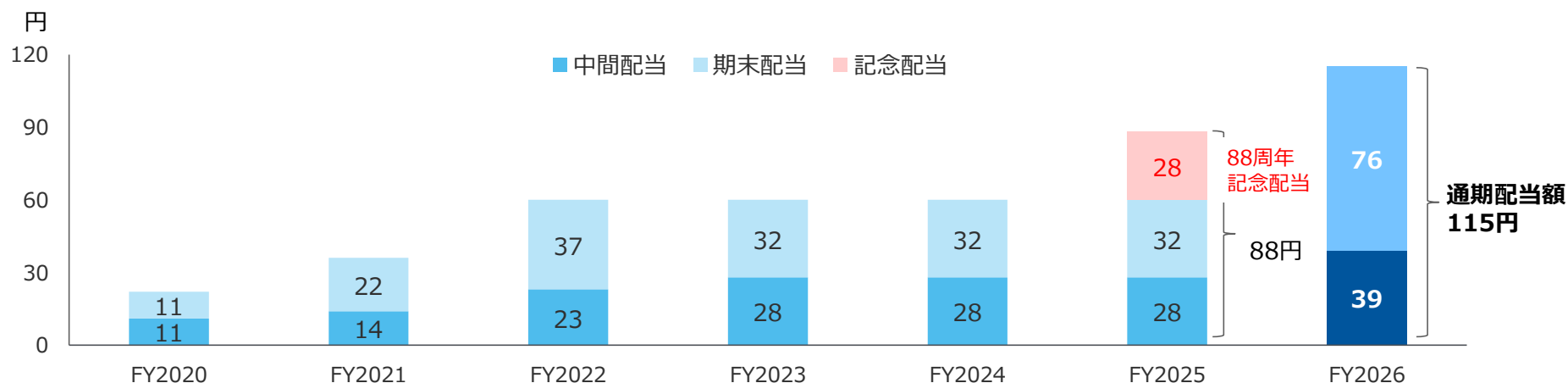
予想前提レート(修正後) : 1US\$=155円 1Euro=180円

※単体業績は期初予想から変更ありません

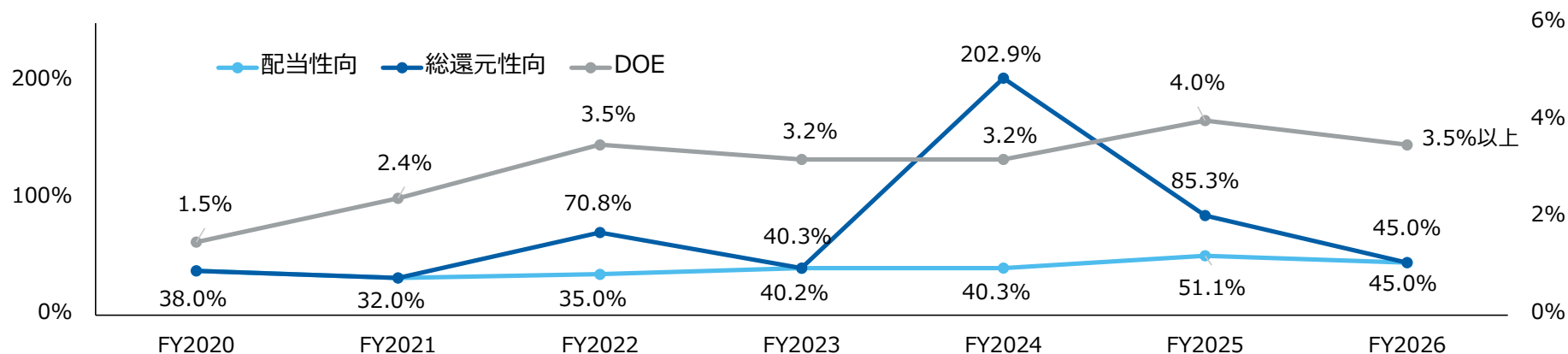
株主還元方針

配当性向45% または 株主資本配当率（DOE）3.5%のいずれか高い方

配当



配当性向
総還元性向



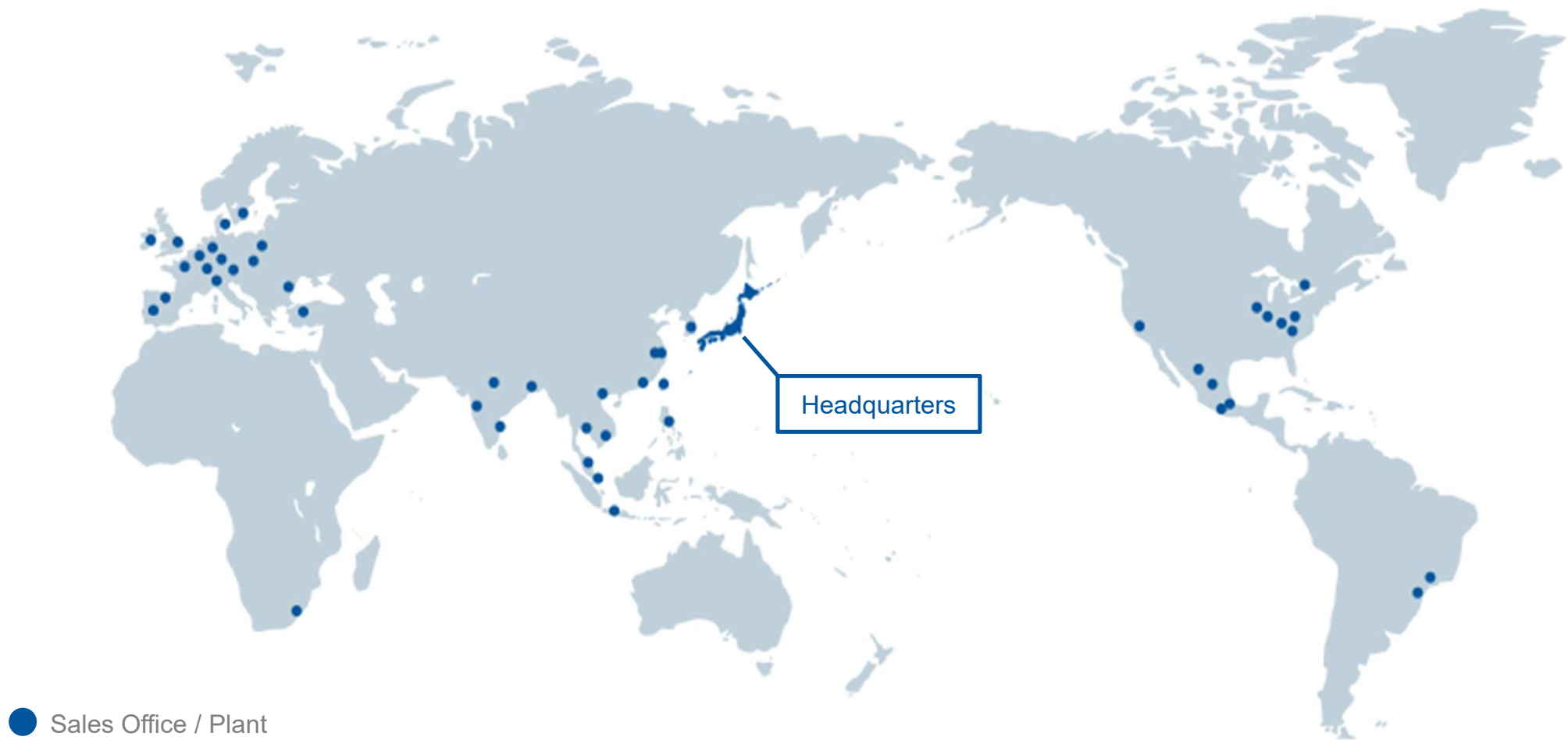
為替レート

	期間平均レート			期末日レート		
	1US\$	1Euro	1RMB	1US\$	1Euro	1RMB
FY22 2Q	120.91円	133.13円	18.75円	128.21円	137.76円	19.18円
FY22 通期	130.61円	137.60円	19.42円	138.87円	143.58円	19.43円
FY23 2Q	134.49円	145.24円	19.40円	139.77円	150.04円	19.71円
FY23 通期	140.44円	151.87円	19.79円	147.07円	161.51円	20.60円
FY24 2Q	150.85円	163.58円	20.90円	156.74円	169.78円	21.61円
FY24 通期	150.88円	163.71円	20.98円	150.74円	159.20円	20.80円
FY25 2Q	149.71円	161.45円	20.59円	143.87円	163.57円	20.01円
FY25 通期	149.91円	167.91円	20.81円	156.63円	181.60円	22.13円
FY26 2Q	157.62円	184.66円	22.87円	159.39円	185.66円	23.52円

業績・経営指標（連結ベース）

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026上半期
売上高	(百万円)	105,561	120,198	131,368	126,964	104,388	126,156	142,525	147,703	155,517	160,619	92,093
売上高成長率(対前期)	(%)	-5.7%	13.9%	9.3%	-3.4%	-18.0%	20.9%	13.0%	3.6%	5.3%	3.3%	19.0%
売上原価	(百万円)	59,179	69,711	74,833	73,281	65,715	76,969	83,459	87,254	92,042	94,800	52,063
売上総利益	(百万円)	46,382	50,486	56,535	53,682	38,673	49,186	59,065	60,448	63,475	65,819	40,029
販売費及び一般管理費	(百万円)	28,135	31,349	34,015	34,128	30,276	33,081	37,166	40,648	44,606	45,488	24,368
営業利益	(百万円)	18,246	19,137	22,520	19,554	8,396	16,105	21,898	19,800	18,868	20,330	15,661
経常利益	(百万円)	17,813	19,144	22,567	19,710	8,950	16,141	23,648	21,350	19,825	22,354	17,140
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	10,134	13,993	14,710	13,686	5,639	10,989	16,534	14,307	13,439	14,334	12,501
売上総利益/売上高	(%)	43.9%	42.0%	43.0%	42.3%	37.0%	39.0%	41.4%	40.9%	40.8%	41.0%	43.5%
販売費及び一般管理費/売上高	(%)	26.7%	26.1%	25.9%	26.9%	29.0%	26.2%	26.1%	27.5%	28.7%	28.3%	26.5%
営業利益/売上高	(%)	17.3%	15.9%	17.1%	15.4%	8.0%	12.8%	15.4%	13.4%	12.1%	12.7%	17.0%
経常利益/売上高	(%)	16.9%	15.9%	17.2%	15.5%	8.6%	12.8%	16.6%	14.5%	12.7%	13.9%	18.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益/売上高	(%)	9.6%	11.6%	11.2%	10.8%	5.4%	8.7%	11.6%	9.7%	8.6%	8.9%	13.6%
平均為替レート 1USD	(円)	109.78	112.33	110.53	109.36	106.94	109.41	130.61	140.44	150.88	149.91	157.62
平均為替レート 1Euro	(円)	121.39	126.20	130.68	122.53	121.60	130.04	137.60	151.87	163.71	167.91	184.66
総資産	(百万円)	156,081	166,712	178,020	190,414	200,112	209,757	228,852	250,124	257,256	267,699	279,724
自己資本	(百万円)	92,216	115,810	125,332	129,078	129,338	143,811	164,659	181,561	166,633	180,811	191,680
1株当たり当期純利益	(円)	110.59	153.70	150.47	140.06	57.94	112.63	171.54	149.29	148.94	172.11	152.16
1株当たり配当金（中間）	(円)	22.00	21.00	22.00	23.00	11.00	14.00	23.00	28.00	28.00	28.00	39.00
（期末）	(円)	28.00	25.00	25.00	24.00	11.00	22.00	37.00	32.00	32.00	60.00	(予定)76.00
1株当たり純資産	(円)	1,024.34	1,191.65	1,279.29	1,328.08	1,327.22	1,472.45	1,721.14	1,892.35	1,962.21	2,200.98	2,332.68
期中平均株式数	(千株)	91,640	91,044	97,761	97,716	97,335	97,573	96,388	95,838	90,233	83,289	82,159
ROA（営業利益ベース）	(%)	11.7%	11.9%	13.1%	10.6%	4.3%	7.9%	10.0%	8.3%	7.4%	7.7%	11.4%
ROE	(%)	10.4%	13.5%	12.2%	10.8%	4.4%	8.0%	10.7%	8.3%	7.7%	8.3%	13.4%
自己資本比率	(%)	59.1%	69.5%	70.4%	67.8%	64.6%	68.6%	72.0%	72.6%	64.8%	67.5%	68.5%
総資産回転率	(回)	0.68	0.74	0.76	0.69	0.53	0.62	0.65	0.62	0.61	0.61	0.67
営業CF	(百万円)	16,333	20,820	20,310	19,261	17,038	26,982	20,175	23,331	28,557	26,389	16,541
投資CF	(百万円)	-16,843	-7,566	-13,351	-20,314	-17,133	-6,961	-12,170	-8,543	-21,741	-13,976	-5,838
財務CF	(百万円)	-778	-11,137	-4,723	3,465	9,658	-14,264	-14,740	-3,831	-7,985	-15,035	-8,159
キャッシュフローマージン	(%)	15.5%	17.3%	15.3%	15.1%	16.3%	21.4%	14.2%	15.8%	18.4%	16.4%	18.0%

OSGグループネットワーク





shaping your dreams



中期経営計画

Beyond the Limit 2027
Stage2

2025年11月期～2027年11月期

変遷（次なる成長へ事業基盤が整う）

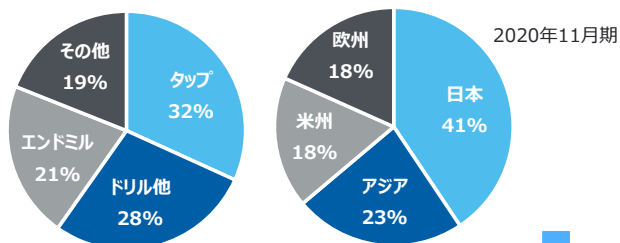
地球会社

グローバルネットワークの構築



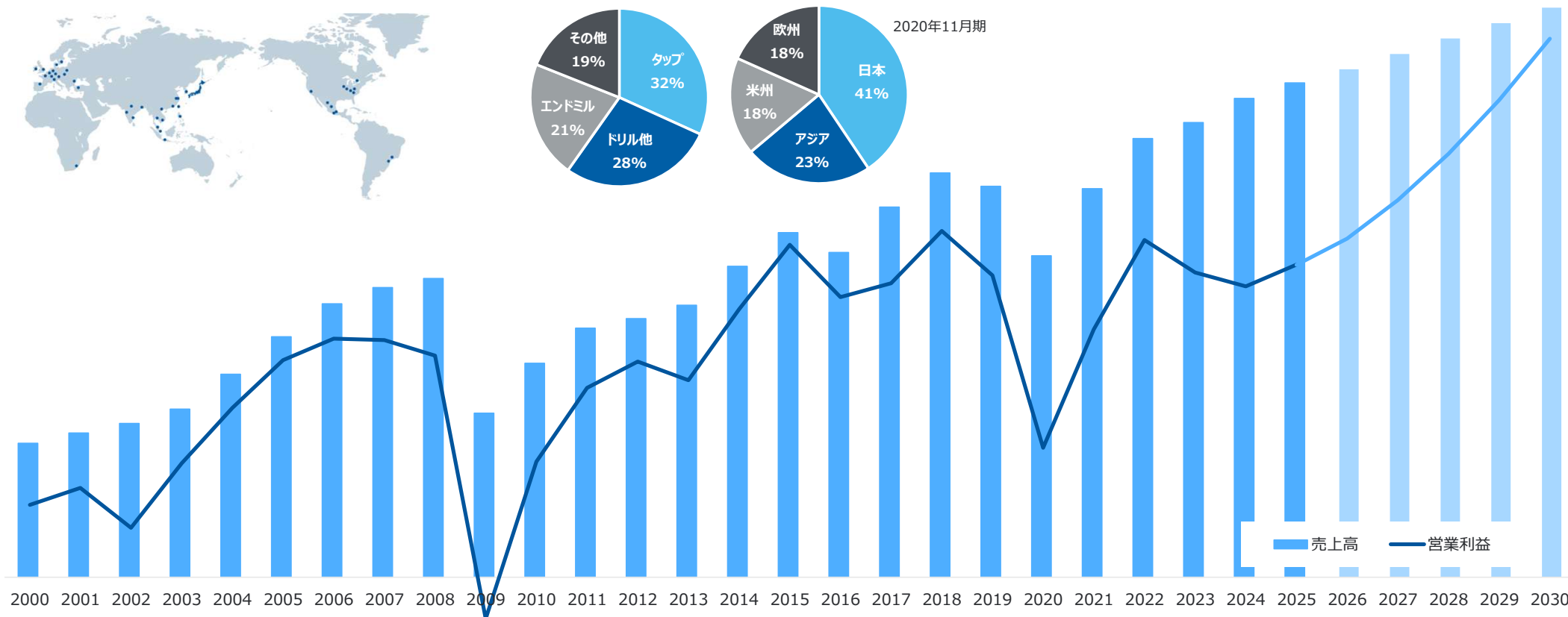
世界No.1の穴加工切削工具メーカー

M&A戦略により、地域・製品両面で安定的かつ均衡の取れた事業ポートフォリオを実現



エッセンシャルプレーヤー

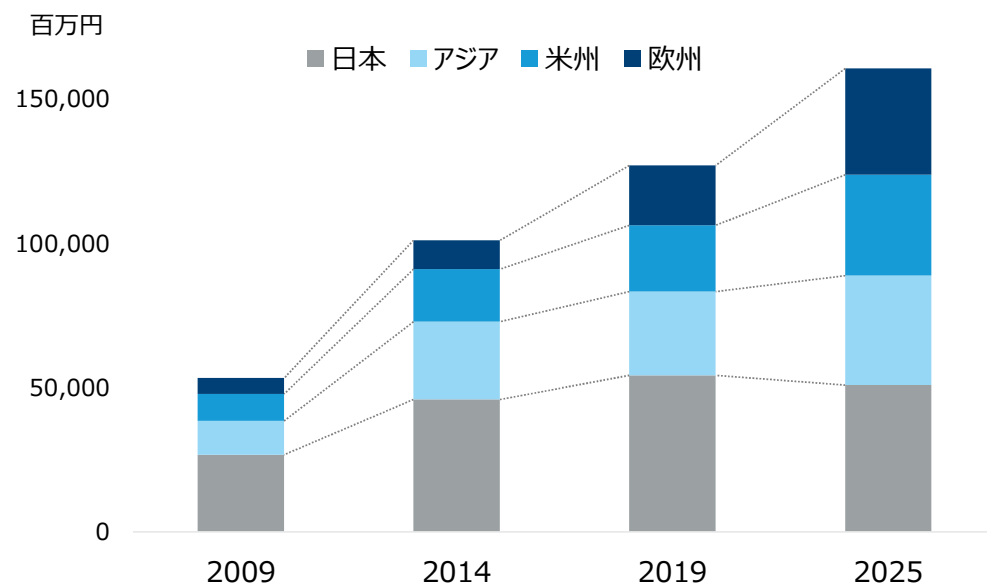
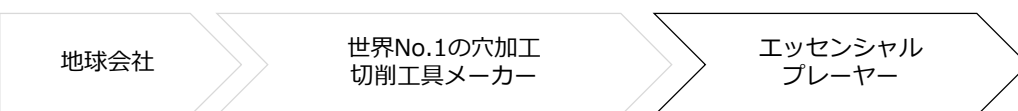
お客様の挑戦を支える存在として、共に利益と持続可能な未来の実現を目指す



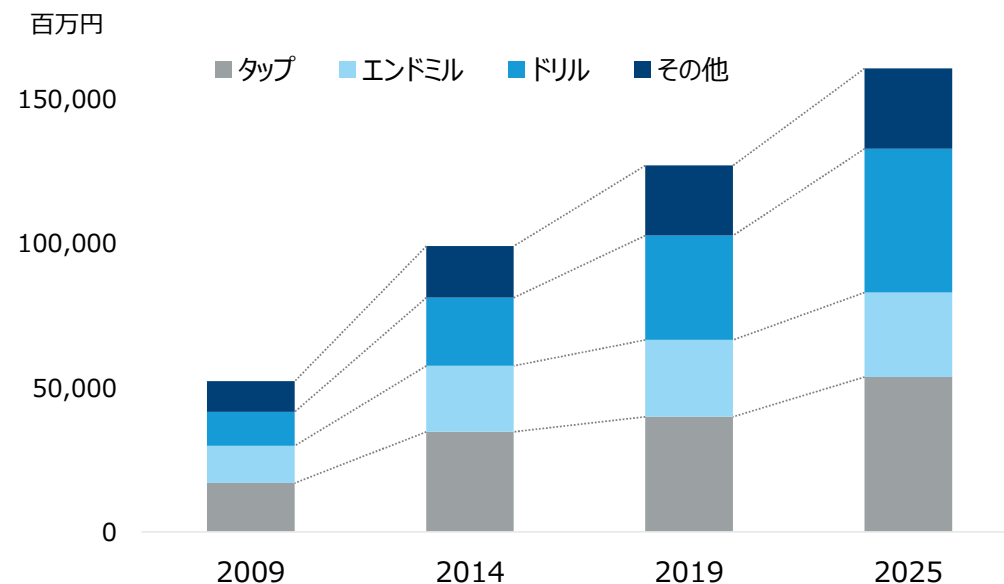
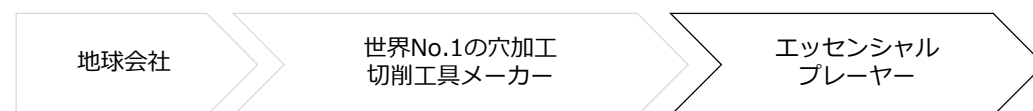
地域・製品の両面でバランスの良い事業基盤を確立

戦略的な地域展開と注力産業の多角化により、日本国外でのプレゼンスを高めるとともに、
タップに偏らないバランスの取れた製品構成を実現、切削業界において最高水準の成長を遂げました。
将来の持続的成長に向けた強固な事業基盤も着実に構築しています。

地域別外部顧客向け売上（実績）の推移



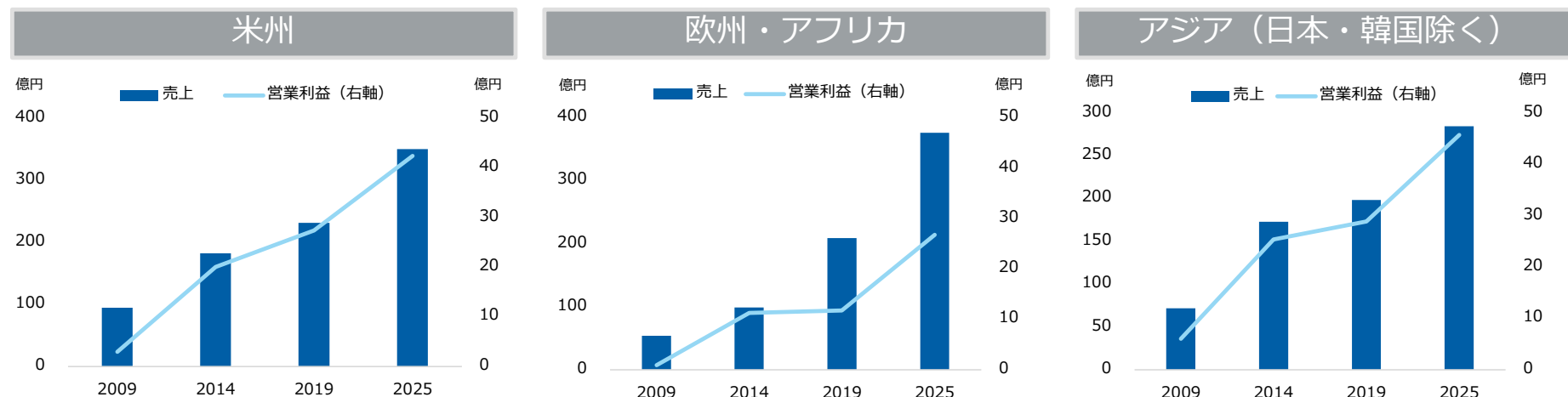
製品別売上（実績）の推移



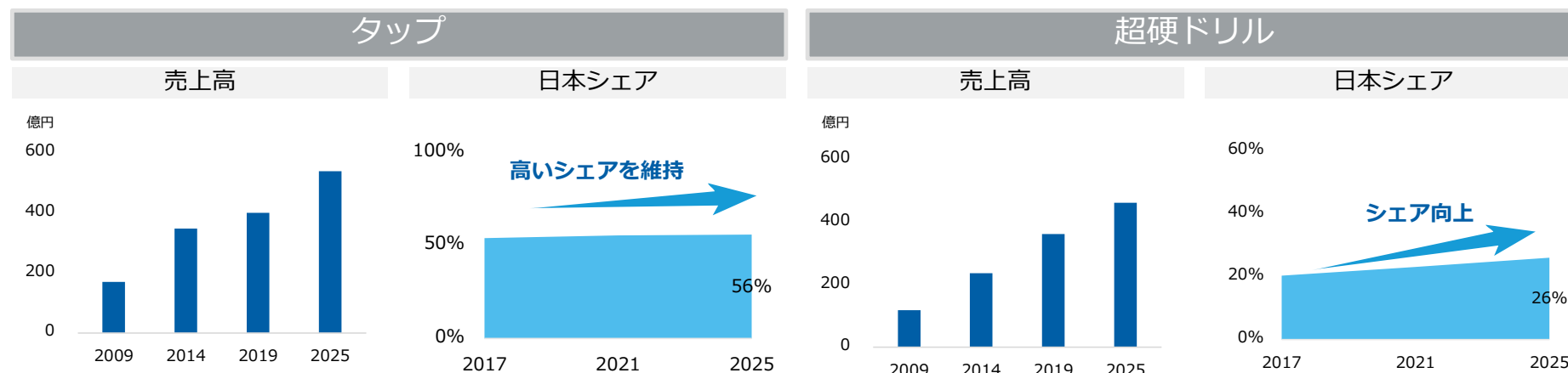
地域別・製品別実績推移

日本国外での規模拡大は著しく、特に穴加工工具であるタップと超硬ドリルは大きく成長しました。

地域別
売上高
営業利益率



製品別
売上高
日本シェア



出所:日本シェア「日本工作機械工業会の統計調査データ」

Beyond the Limit

【長期ビジョン】
カーボンニュートラル時代に向けて
世界のモノづくり産業に貢献する
エッセンシャル・プレイヤーへ

変化の激しい市場環境の中にあっても、確かな価値を提供し続けると同時に、持続的に利益を創出できる強靱な企業体質の実現に向け、事業効率の改善に取り組みます。

Beyond the Limit
2022-2024 (Stage1)

Beyond the Limit 2025-2027
(Stage2)

Beyond the Limit
2028-2030 (Stage3)

2027/11 計画

ROE
10%超

営業利益率
16%超

収益性向上の取り組み

- ① Aブランドを中心とした高付加価値製品の売上拡大
- ② 微細・精密加工向け工具の売上拡大
- ③ 生産性及び業務効率化による原価改善
- ④ 製品シリーズ・価格見直し
- ⑤ 販管費比率の低減
- ⑥ BSマネジメント施策の実施

中計Stage2概要（1/2） - 事業成長戦略

	製品	戦略方針	主な産業
主力事業 成長を牽引	タップ	品質向上や競争力のある新製品の投入を通じて、開発・技術・生産・営業が一体となってシェア拡大を目指します。また、高付加価値のAブランドシリーズの拡販を推進し、 タップの世界シェア40% を目指します。	電子部品 エネルギー モビリティ 一般部品
	転造工具	創業製品のタップに次ぐ歴史の長い製品。 製造工程やサプライチェーンの見直しにより価格競争力を強化し、 グローバル展開 を一段と加速させます。売上倍増とともに利益率の改善もを目指します。	航空機 エネルギー モビリティ 一般部品
注力事業 今後の成長に繋がる 事業領域の拡大	微細・精密工具 超硬 DIA/CBN	部門横断型営業組織であるGIGSセールスグループの活動強化とともに、新製品の投入により 微細・精密加工用工具 の売上拡大を図ります。 さらに、 ダイヤ工具 のグループ会社を中心にレンズ業界など既存産業以外の新規分野の開拓も進めます。	電子部品 航空機 エネルギー モビリティ 医療 金型 一般部品
	コーティング	高付加価値のコーティングビジネスは、中長期的にも拡大が見込まれます。 自社製品の競争力向上に資するコーティング開発を進めるとともに、工具以外の多様な製品を対象とした ジョブコーティング サービスの拡大を一段と加速します。	電子部品 医療 金型 工具 一般部品

中計Stage2概要（2/2） - 経営基盤強化

事業効率と資本効率を改善し企業価値を高める

領域	戦略方針	取り組み
オペレーション	労働力不足への対応を見据え、 デジタル技術 を活用して、生産・営業プロセスの簡素化と効率化を進め、生産性および収益性の向上を図ります。あわせて、自社製機械設備の導入による 生産体制の複合化・省人化 を推進し、柔軟で強靱な事業基盤の構築を進めます。	- 事業効率の向上 - DX技術革新への対応 - 情報セキュリティ強化
組織・人的資本	適材適所の人員配置や自主性・組織力を高める人財育成を進め、社員一人ひとりの価値を最大化する人事施策を推進します。社員が働きがいを感じ、安心して挑戦できる職場環境を整備するとともに、絶えず変化する社会環境の中でも変化を厭わず挑戦を続けることで、社員と会社がともに成長し、 企業価値の向上 を実現します。	- 人財の能力向上 - 働きがいのある職場環境の整備 - エンゲージメント向上
サステナビリティ	2030年にCO ₂ 排出量を2024年度比20%削減、2050年にカーボンニュートラル達成を目指し、Scope1・2の排出削減、Scope3の算定、主力製品の CFPの算定による環境負荷の見える化 を推進します。運用改善による電力使用量削減と再生可能エネルギーの活用により、資源循環型社会の実現を目指します。	KPI (FY2027) 20% - CO₂排出量の削減 - カーボンフットプリントの算定
財務・資本政策	既存事業の成長戦略に加え、 M&A を含む積極的な成長投資を継続します。さらに、株主還元やIR活動を通じて株主資本コストの低減を図り、資本効率を高めることで、 ROE10%超 を目指します。	ROE 10%超 - 最適資本構成の構築 - 成長分野への戦略投資 - 株主還元の強化

事業機会と成長分野

既存産業向け売上拡大の取り組みを継続する一方、今後の成長が期待される医療・モビリティ・AI・エネルギー・宇宙などの開拓を進めることで、顧客産業の伸びを上回る成長を目指します。



※各産業分野の画像はすべてイメージ

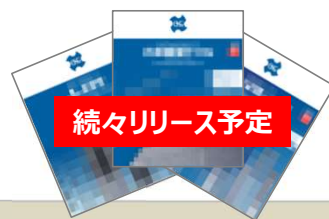
Aブランド/The A Brand

Aブランドは高品質、高性能にも関わらず価格を抑えたOSGのフラッグシップ製品として2015年に誕生。A-TAPを皮切りに、A-DRILL、A-ENDMILLと広げ、現在もラインナップを拡充し続けています。

Aブランドを中心とした高付加価値製品の売上拡大

ポイント1

Aブランドの新製品を 短いサイクルで発表



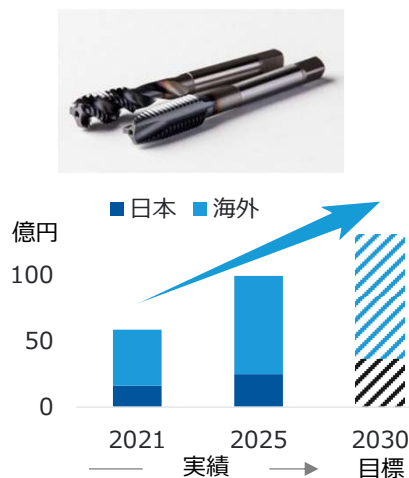
A-TAP

世界が欲しがる製品づくりでタップシェア40%を目指す

【A-TAPの強み】

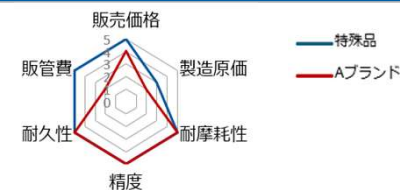
- 機械設備を選ばず、最新鋭のマシニングセンターに取り付ければ最高のパフォーマンスを発揮
- 幅広い被削材を加工することが可能
- 切り屑の排出性能が高い設計と耐摩耗性に優れたコーティングで工具の長寿命化を実現した環境配慮型の製品

日本だけでなく、北米、欧州、中国でも高い評価を得ており、日本市場と同規模の売上を各地域で獲得しています



ポイント2

Aブランドは収益性が高い



ADO-MICRO (オイルホール付小径超硬ドリル)

新製品で小径分野でもシェアを拡大する

【ADO-MICROの強み】

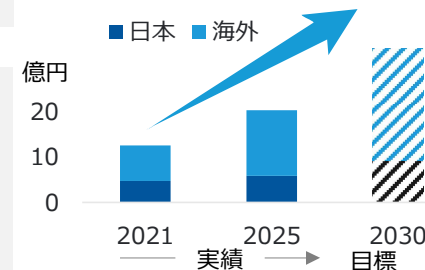
- オイルホール付きの小径ドリルを製造販売している競合他社が少ない
- 高付加価値製品のため、高価格での販売が可能
- 欧州は加工能率を重視する傾向があるため、内部給油を利用した機械設備が浸透しており、当社製品は高い評価を得ている

【用途一例】

- シャワープレート：半導体製造装置部品（主にエッチング装置等でガスを均一に分配する部品）
- DPF金型：自動車排ガス浄化フィルタ等のセラミックハニカム構造体を製造するための押出成形金型等



欧州では日本市場以上の売上を獲得



微細・精密加工（ダイヤモンド工具、医療）

ダイヤモンド工具

関連するグループ会社	用途市場	注力エリア
・ オーエスジーダイヤモンドツール ・ Contour ・ Fiudi 等	半導体製造装置・検査装置用部品、 レンズ、精密金型、医療用具、 自動車・航空機部品 等	日本、台湾、 南アジア、中国

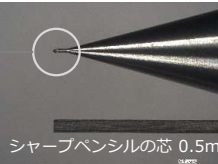
ダイヤモンド工具事業に関する説明

事業説明

ダイヤモンド工具はアルミニウム、銅、超硬合金、ガラス、プラスチック、CFRP、セラミックス等の非鉄・複合材料の加工を対象としているものの、用途は精密加工に限りません。近年は振動切削技術の進化により鉄系材料の加工も可能となり、市場は従来の想定以上に拡大しています。

製品

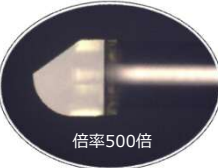
極小径の単結晶ボールエンドミル



シャープペンシルの芯 0.5mm

カタログ発行

ダイヤモンド工具に関する正しい知識を広めることで市場拡大を図るべく、教科書兼カタログを発行しました。価格、納期、取扱いに関する誤解が普及の障壁となつていますが、教科書を通じて理解を深めることで、超硬工具からの代替提案による新規需要を創出し、国内製造業の高度化と当社の成長につなげてまいります。

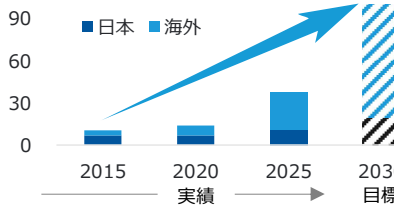


倍率500倍

タイプアップ

牧野フライス製作所様：搭載工具の製造販売
多賀電気様：楕円振動切削用工具の製造販売
芝浦機械様：ナノ加工システム用工具開発予定

ダイヤモンド工具の売上見込み



2030年の売上は100億円を目指す。

年	日本 (億円)	海外 (億円)
2015	10	5
2020	20	10
2025	40	20
2030	100	50

再研磨

刃先のダイヤモンドは再研磨を行うことで繰り返し使用できるほか、シャンクや母材に取り付けて使用するチップ式はダイヤモンド素材を張り替えることができます。

医療

関連するグループ会社	用途市場	注力エリア
・ OSG ・ Winglit 等	歯科補綴物（ほてつぶつ）、 人工骨、人工関節 等	日本、欧州、北米、南アジア

医療関連事業に関する説明

事業説明

歯科補綴物に使用されるあらゆる材料に適した独自の工具形状とコーティングで、歯科用CAD / CAM システムに対応した製品を世界中で展開しています。
【日本】歯科業界で使用される工具シェア6割

トレンド

歯の健康は全身の健康やQOLに関わるため、予防や審美歯科の需要が伸びています。
【日本】2026年診療報酬改定で保険治療範囲が拡大します。2014年8本だった適用範囲が、2026年6月からほぼすべての被せ歯の治療に適用されることになりました。

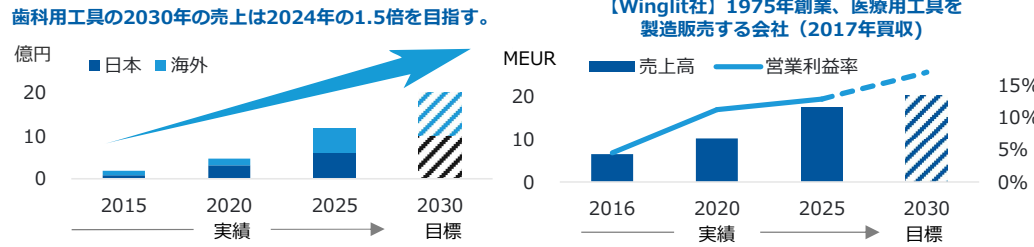
切削対象物（例）

クラウン・ブリッジ

人工股関節



医療産業向け売上見込み



コーティング（ジョブコーティング事業）

関連するグループ会社	用途産業	注力エリア
OSGコーティングサービス（日本） 大宝鈦金科技股份有限公司（台湾） Primcoat PVD Technology（インド） Perform Coat（アメリカ、スイス） PRIMUS COATING（ドイツ）等	金型 電子部品 医療 機械部品 工具	ドイツ インド トルコ ベトナム

コーティング事業の展開

コーティング拠点は世界16カ国、29拠点（連結会社25拠点、非連結会社4拠点）



競争優位性の源泉（How to Win）

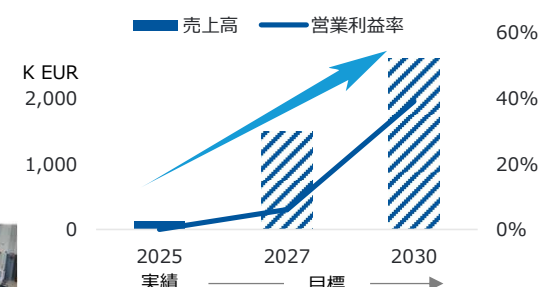
- コーティング設備を自社製造していることから、コスト競争力が高い
- コーティング専門メーカーに劣らないコーティングの種類と精度
- 金型等のコーティングの隙間で工具のコーティングが可能であり、生産効率が高い
- コーティングの拠点は世界に29拠点あり、お客様の世界進出をサポート可能

コーティング事業は金型ヘシフト

コーティング事業は初期投資はかかるものの、工具に比べて金型用のコーティングは高単価のため5年程度で投資回収を見込む

ドイツにおけるコーティング事業の展開

- 2025年3月にドイツのフライブルグでPrimus Freiburgが稼働開始
- ダイキャスト金型のコーティングも可能な大型炉（最大積載量2トン）を開発
⇒旺盛な需要を背景に、コーティング炉を1台増設
- 寡占市場の開拓



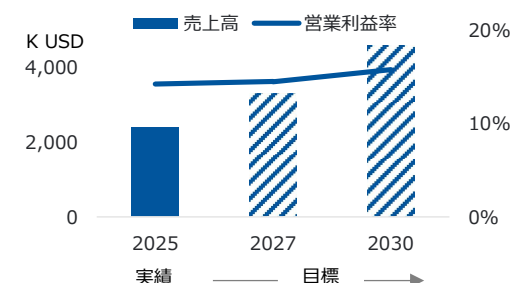
ドイツにおけるジョブコーティングの市場規模300億円超

インドでは4拠点目のコーティング新工場が稼働開始

グジャラート州アーメダバート
2026年5月稼働開始



35~100km圏内に大手自動車メーカー各社



インドにおけるジョブコーティングの市場規模100億円超

重電・半導体

AIの普及、クラウドサービスの拡大等、デジタル化の進展に伴いデータセンターの電力消費や異常気象による電力需要が年々増加しています。

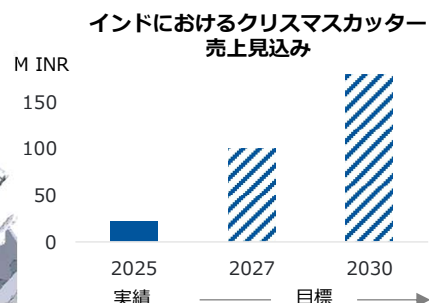
重電

トレンド

- 需要の増加により世界中で電力炉の建設が進んでいますが、今後は効率が良く環境性能の高い高機能な電力炉の建設も続きます。
- 発電用タービンに当社のクリスマスカッターが使用されますが、**生産が追い付かないほど受注が旺盛。**
⇒**中計期間中に生産能力を25年期初比75%増強。**

インド市場

- インド政府系のパワープラント最大手メーカーからクリスマスカッターを受注。インドは国内のみならずこのパワープラント事業を中東、アフリカへ輸出する戦略を進めており、今後も大きく伸びる市場です。



半導体

トレンド

世界のデジタル化進展と共に今後更に半導体の需要が増加します。半導体製造装置は、極めて高い精度・耐腐食性・耐熱性・耐プラズマ性・クリーン性等が求められるため、超硬合金のほか、セラミックス、高純度ガラスや石英、高機能樹脂等さまざまな高機能材料が使用されています。中には、硬脆材といって硬度は高いが衝撃に弱いという両極端な性質を持つ材料もあります。

課題

- 硬脆材は一般的な加工方法（切削加工と放電加工）では、加工時間が長く生産が高まらない。

解決策

- 新たに6C x OSGブランドを立ち上げ、硬脆材を高効率・高精度で直彫り加工し、加工時間の短縮と加工コストの削減を実現しました。



顧客産業別ポートフォリオ（目標）

事業環境に左右されにくいバランスの取れた顧客産業別ポートフォリオへの変革を進める
Aブランドや微細・精密加工向け工具の売上比率を高めることで収益性を改善する

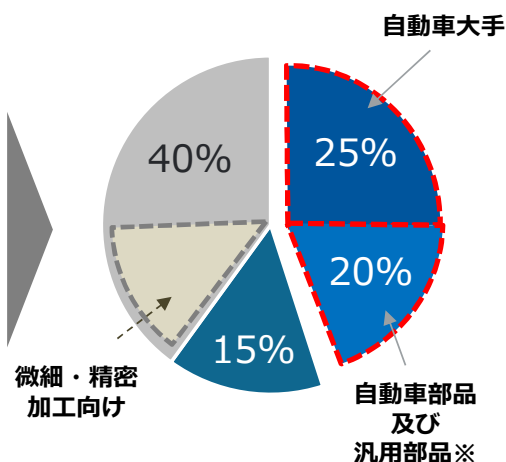
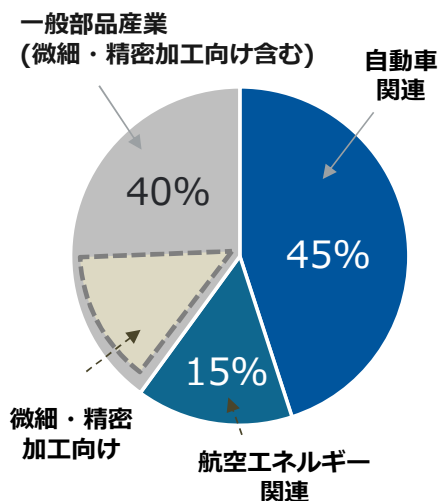
Beyond the Limit
2022-2024 (Stage1)

Beyond the Limit
2025-2027 (Stage2)

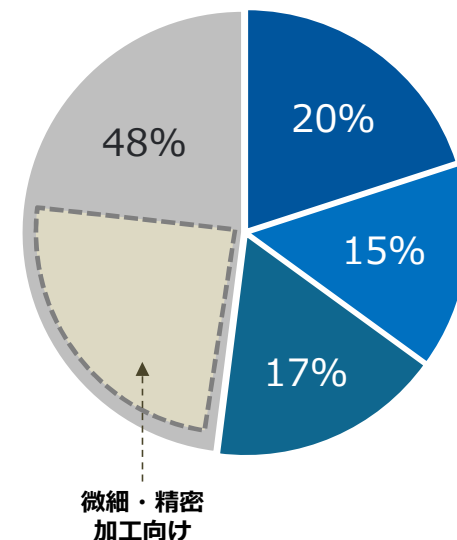
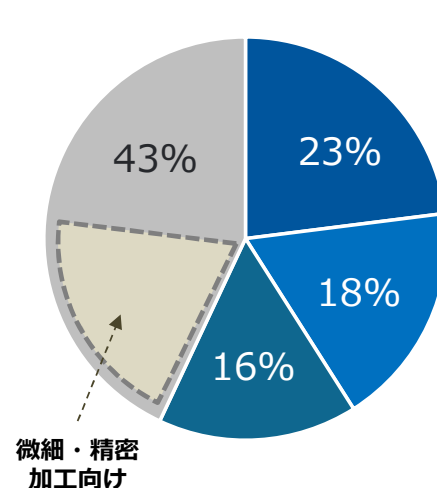
Beyond the Limit
2028-2030 (Stage3)

従前掲載

区分変更後



※自動車以外の産業用途にも展開する
顧客動向の変化に鑑み、区分を変更



財務資本政策（現状）

更なる持続的成長と資本効率改善を通じて、中計Stage2に掲げるROE目標10%超を実現します。

株主資本コストを低減しつつ、それを上回るROEを目指す（＝エクイティ・スプレッド^{*1}の最大化）

*1: エクイティ・スプレッド = ROE - 株主資本コスト

PBR^{*2}

1.6倍



ROE^{*3}

期待成長率等を含む
株主資本コスト（＝PER^{*4}の逆数）

2025年11月期

8.3%

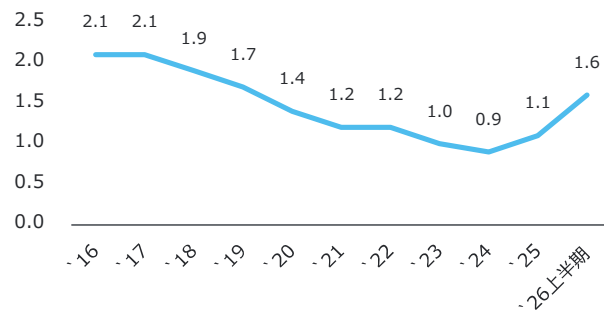
2026上半期

13.0%

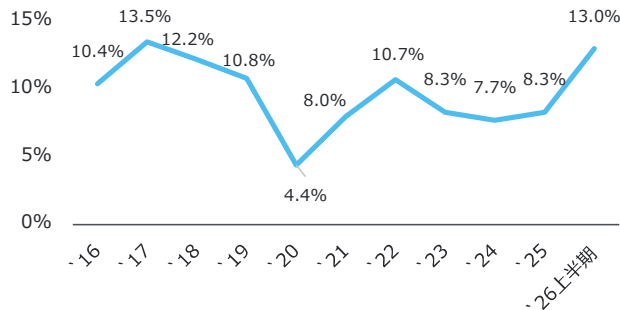
7.6%

8.3%

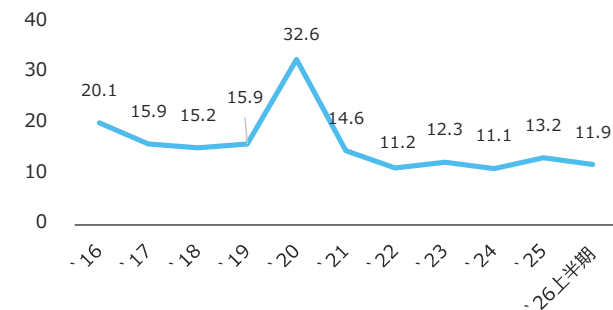
PBR



ROE



PER

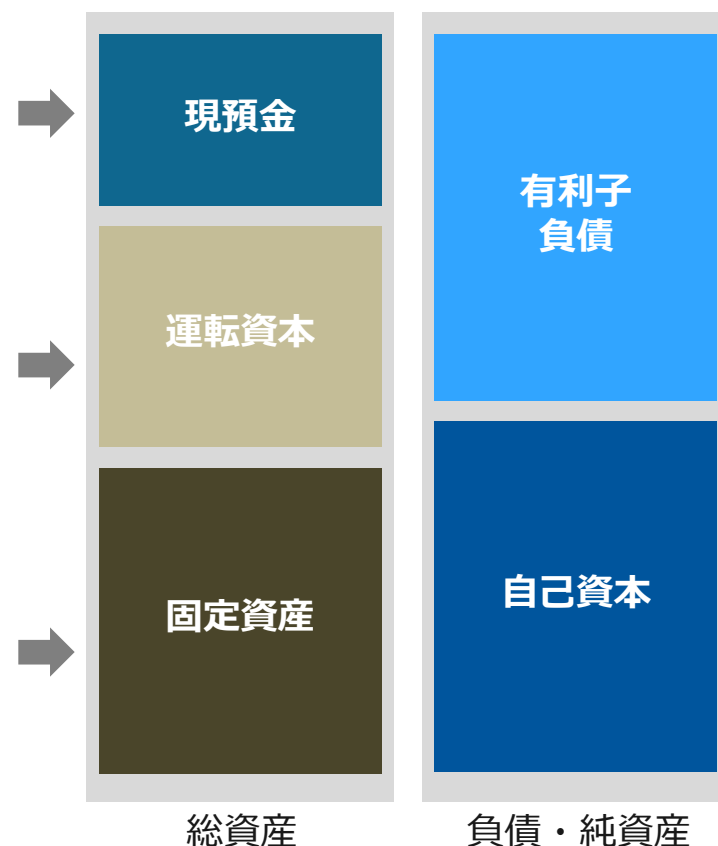


*2: PBR = 時価総額（自己株式除く）÷ 自己資本
 *3: ROE = 親会社帰属当期純利益 ÷ 自己資本
 *4: PER = 時価総額（自己株式除く） ÷ 親会社帰属当期純利益
 注1: 時価総額 = 株価（月末終値 ※年度末 or 四半期末） × 発行済株式数（自己株式を除く。 ※年度末 or 四半期末）
 注2: 自己資本 = 純資産合計 - 新株予約権 - 非支配株主持分。期首・期末平均
 注3: 算出基準日 = 株価は2026年5月29日の終値ベース。

財務資本政策

バランスシートの改革を行い、最適な成長投資と株主還元の強化を目指す

- 成長投資（M&A、設備投資、研究開発費等）や株主還元を活用
- グループ内のキャッシュ・アロケーションの見直し
- CCC短縮によるキャッシュの創出
（在庫圧縮、回収・支払サイトの見直し）
【棚卸資産回転期間の目標】
2024年 4.4ヶ月
2030年 3.5ヶ月（目標）
- 減価償却費をベンチマークとした設備投資
- 政策保有株式の削減



- 負債の活用によるWACCの低減
- 最適な資本構成の追求

- IR活動を通じた株主資本コストの低減
- 株主還元の強化
（配当性向の引き上げ、自社株買い）

キャッシュアロケーション計画

営業キャッシュフローについては **戦略投資** へ主に投入し、**株主還元**の強化も図り、財務構成を見直す

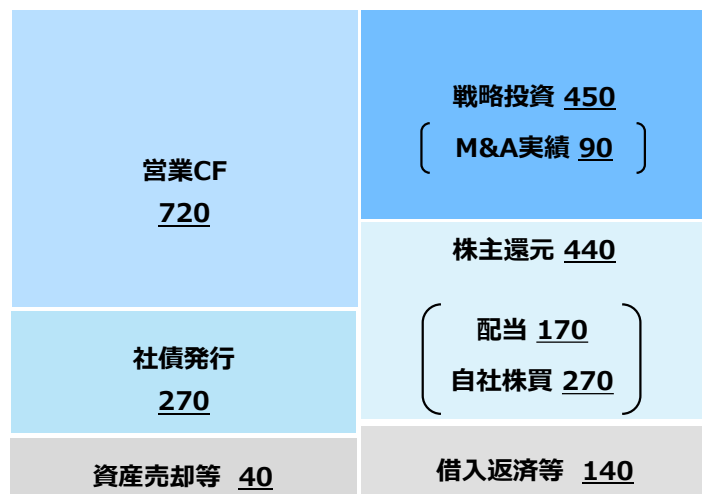
Stage1 実績

(2022年11月期～2024年11月期)

億円

Cash In
1,030

Cash Out
1,030



Stage2 計画

(2025年11月期～2027年11月期)

億円

Cash In
1,300

Cash Out
1,300



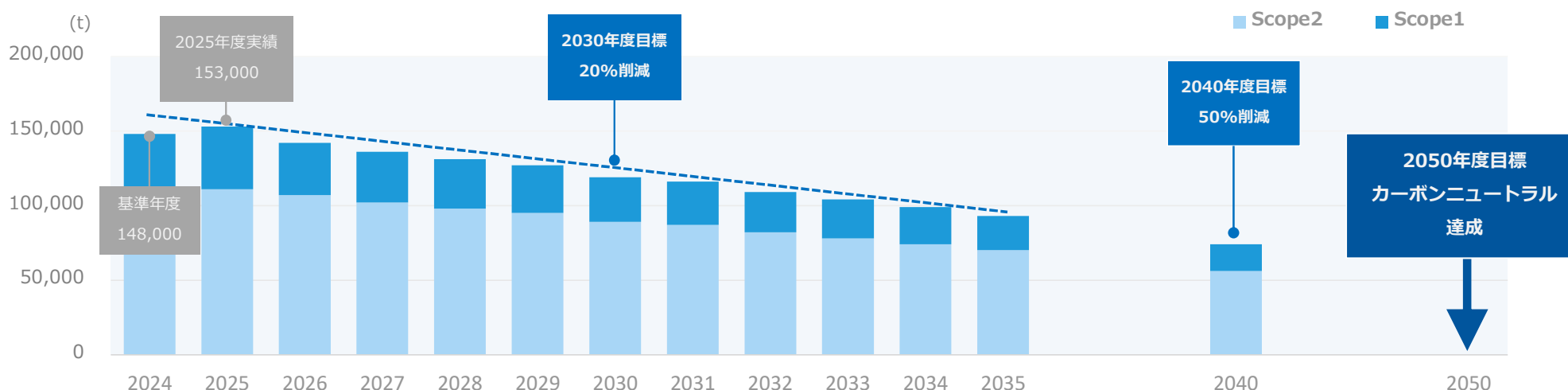
- 超硬エンドミルの新工場建設
- 微細・精密工具等成長領域向けの生産設備増強
- 戦略的M&A
- 自動化・省人化設備への投資
- DX推進
- 安定的・継続的な配当
- 機動的な自社株買いを実施

サステナビリティの取り組み

－カーボンニュートラルの実現に向けて－

オーエスジーグループは、CO₂排出量削減に向けた新たな全社目標を設定しました。
2030年に2024年度比20%削減を目指し、計画に基づく取り組みを着実に推進してまいります。

CO₂排出量削減ロードマップ（連結Scope1.2）



2026年 進行中の 取り組み

- **再生エネルギーの導入の推進**
2028年度オンサイトPPAの導入（大池新工場）
- **バリューチェーンCO₂排出量（Scope3）算定**
輸送（Cat4・Cat9）を中心に算定を推進

次の ステップ

- **2030年20%削減達成に向けて**
 - ・ 省エネ施策
 - ・ オンサイトPPA
 - ・ オフサイトPPA
 - ・ CO₂フリー電力・環境価値
- これらを組み合わせた
最適な削減ポート
フォリオを検討